

## 推進校別事業実績報告書

### <取組と成果のポイント>

学校生活全般を土台とし、道徳の時間、体験活動、他教科・特別活動等を実践の三本柱と位置付けた。今年度は特に、道徳の時間の充実を図ることに重点をおいた。授業研究部を中心に、資料の選定や授業の組み立て方についての検討を研究課題として実践に取り組んだ。

4月当初、研究を始めるにあたり、「道徳の授業に自信がもてない」「具体的な指導方法が分からない」という苦手意識が強かった本校の教師が、自主的に研修を行うなどの、指導力向上のための機会を進んでもつようになった。このような多くの教師の意識の変化が、指導に反映し、児童にも変容が見られるようになった。特に集団や社会に対して、主体的に関わろうとする児童が増えてきた。

### 1 推進校（又は推進地域）の概要

学校名	所在地	電話番号	児童数	備考
東郷町立春木台小学校	愛知郡東郷町春木台4-5-1	0561(39) 3531	447人	

### 2 研究主題

「公共心をはぐくむ道徳教育」

— 学校生活全般における学び合いを通して —

### 3 研究主題とその設定理由

#### (1) 本校の学校概要および学校教育目標

本校の所在地である東郷町は、名古屋市と豊田市の間に位置し、住宅地開発を中心に発展してきた町である。農地や樹林地が多く、比較的自然にも恵まれた地域を学区とする本校は、児童数447名、特別支援学級を含めて17学級の中規模校である。

今年度、創立40周年を迎えた本校は、「通いたくなる学校・真に母校と呼べる学校づくり」・「地域に根ざす開かれた学校づくり」を目指し、校訓「真心」のもと、以下のような教育目標を掲げ、教育活動に取り組んでいる。

心豊かで よく学び 活気あふれる春木っ子の育成

「心豊かな子」とは、確かな判断力と思いやりの気持ちにあふれる子

「よく学ぶ子」とは、探求心をもって積極的に粘り強く学ぶ子

「活気あふれる子」とは、心身ともに健康でたくましく元気な子

#### (2) 児童の実態から

本校では平成21・22年度と「学び合いを通して確かな学力を身に付ける学習指導の推進」という主題で現職教育に取り組んできた。お互いの思いや考えを交流し合う活動を中心とした授業実践の成果として、児童は多様な価値観にふれることで、自身の考えを広げたり深めたりすることができるようになってきたことが挙げられる。そして、自分に自信をもって意見を発したり行動したりすることができる児童も増えてきた。

しかし、学校生活全般を見ると、規範意識が薄れて自己中心的な行動をとり、様々な場面でトラブルを起こしてしまう児童が少なくないことが分かった。そういったトラブルは、異学年集団で行動する通学団や縦割班での清掃活動などの場面で多く見られた。

また、指示されたことについては活動できるが、他者のために進んで行動することができない児童も多い。そこで、学校での教育活動全般を通して、集団や社会のために主体的に行動することのできる児童の育成をしていく必要があると考えた。

#### 4 研究の概要

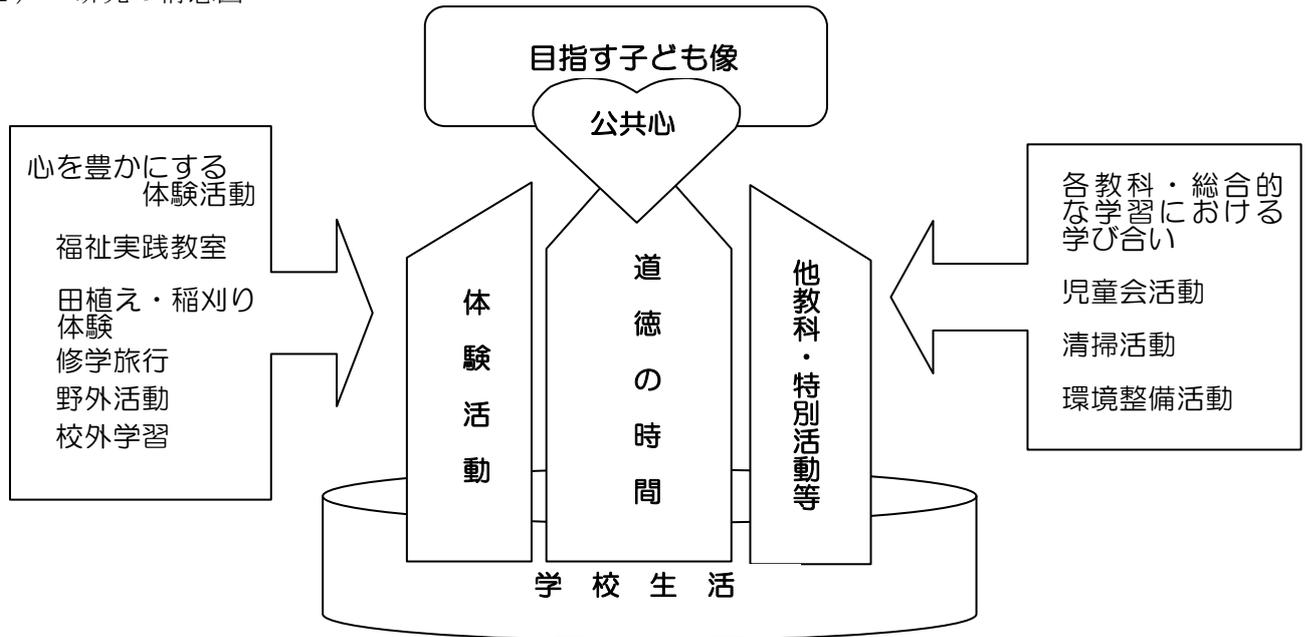
##### (1) 目指す子ども像

「集団や社会のために主体的に行動しようとする心」を公共心と定義し、「公共心」をはぐくむ道徳教育の推進をテーマに以下のような目指す子ども像を設定した。

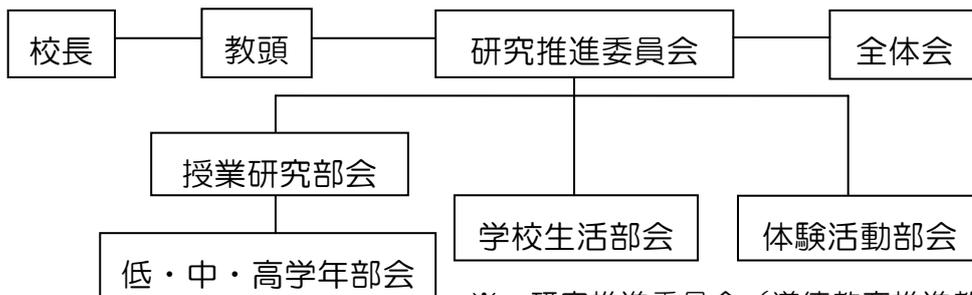
#### 目指す子ども像

低学年	みんなが使うものを大切にして、約束やきまりを守ることができる子
中学年	身近な集団の中で、思いやりの心をもって、仲間を大切にすることができる子
高学年	思いやりの心をもって、集団のために主体的に行動することができる子

##### (2) 研究の構想図



##### (3) 研究の組織



※ 研究推進委員会（道徳教育推進教師・各部会の部長・教務主任・校務主任）で構成

#### 5 実践事例

##### (1) 授業研究部

###### ① ねらいとする道徳的価値に迫るための資料の活用について

本校では道徳の時間に、地域共通の副読本を使用しているが、資料選択の幅を広げるために、様々な教科書会社の読み物資料集や文部科学省の「小学校道徳読み物資料集」を参考にした。読み物資料の他には、児童による朗読劇、主題に関わる写真・絵本の利用など、教師が学級の児童の実態に応じて、工夫して提示している。

###### ② 学習指導過程の工夫について

###### ア 展開部

展開部で重要な役割を果たすのが中心発問であるが、本校ではこの発問を「主発問」とし、指導案では▲で示した。どんな発問が主発問としてふさわしいのか、どの授業実践の検討会でも話し合いの中心になった。

## イ 導入部・終末部

授業の展開部につなげるためにも、導入の役割はとても重要である。本校の実践では、あらかじめ、学級の児童にアンケートをとってその内容を紹介したり、授業で取り上げる価値についての問題意識をもたせるため、これまでの経験を振り返るような発問をしたりすることを導入部で行った。

### (2) 学校生活部

#### ① 生活目標の活用

本校では、生徒指導部が中心となって月ごとに生活目標を設定している。これを活用して道徳的価値を意識できる目標を掲示した。

#### ② ニコポカかるたの活用

保健部が委員会活動の一環として「ニコポカかるた」を制作し、学級ごとに配付した。「ニコポカ」とは、顔が「ニコニコ」、心が「ポカポカ」を合わせた造語である。児童の考えを生かし健康・安全に関わるかるたを作成した。このかるたの言葉には道徳的価値を意識させるものが入っている。雨の日の室内用の遊び道具として使われているが、児童にとっては遊びの中で道徳的価値に触れる機会となっている。

#### ③ KOKORO のコーナーの活用

保健部が発行している「保健だより」には、「KOKORO のコーナー」という心と体の健康に関連する内容のコーナーがある。この「KOKORO のコーナー」が児童に読みやすい内容であることに着目し、これまでに発行した「保健だより」から道徳的価値に関わる「KOKORO のコーナー」を取り出して、各教室で掲示を行うことにした。

### (3) 体験活動部

#### ① 自然体験

「生命尊重」や「自然愛・動植物愛護」を意識し、どの学年も生活科や理科の学習教材として、生き物や植物を育てた。児童の毎朝欠かさず水やりをする姿や動物にえさをやり、成長を見つめるまなざしからは、命をはぐくむという思いを感じ取ることができた。

#### ② 社会体験

どの学年も校外に出掛けて、見学先の人のお話を聞くことから、「礼儀」や「公德心」を意識して指導した。また、2年生と3年生の活動では、どちらも地域の中を見学することから、「郷土愛」をはぐくみ、4年生では、安全な暮らしを守ってくれている消防士や警察官の方々に対し、「尊敬や感謝」の念を意識させることとした。

#### ③ 生活体験

生活体験では、「仲良く・助け合う」気持ちや、「公德心」をもつことで、望ましい活動ができることを知り、その活動から「愛校心」が芽生えることをねらった。また、学習発表会では、みんなで発表を作り上げていく活動を通して、「生命の尊重」や「信頼・友情」「創意工夫」等への道徳的価値に迫っていった。生活体験全体から、社会の中で気持ちよく生活をしていくための「公德心」や「勤労」についても、個に応じて気付かせていくことをねらいとした。

特別支援学級では、生活単元の「買い物学習」の中で、バスに乗ってスーパーへ行き、実際に買い物をするという「自立」につながる経験をした。

#### ④ 福祉体験

福祉体験は、「思いやり、親切」や「勤労、社会奉仕」につながる学習となる。本校では、毎年、5年生を対象に福祉実践教室を行い、福祉を学ぶ機会を作っている。

## 6 研究の評価

### (1) 研究の成果

① 「道徳指導に自信がもてない」「具体的な指導方法が分からない」など、道徳教育に対して苦手意識をもっていた教師が、自主的に研修を行い力量向上のための機会をもつようになった。

② 道徳の授業で話し合いの機会を多くもつようになり、お互いの意見を聞き合い、思いを共有し合うことができるようになったことで、児童が自分に自信をもつことができるようになった。

- ③ 学校生活全般において、児童に道徳的価値を意識させる取り組みを継続することにより、児童の集団や社会に対して主体的に関わろうとする心情をはぐくむことができた。

(2) 今後の課題と取組

- ① 道徳の時間や特別活動、総合的な学習の時間だけではなく、各教科において、道徳性を養う指導の充実を図っていく。
- ② 道徳教育の評価をどのように行っていくのかについて、さらに研究を進めていき、教師が共通理解を図りながら、検討していく。
- ③ 各部会での話し合いを活発にし、連携を取り合いながら、全教師が道徳教育に関わっていくという意識を今後も継続していく。